

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	高規格ICアクセス 一般国道307号 <small>いちのべ なししま</small> 市辺～奈島	事業区分	一般国道	事業主体	京都府
起終点	自：京都府城陽市市辺 <small>じょうよう いちのべ</small> 至：京都府城陽市奈島 <small>じょうよう なししま</small>			延長	1.3 km
事業概要					
一般国道307号は、滋賀県彦根市を起点に、宇治田原町・城陽市・京田辺市を經由し、大阪府枚方市に至る幹線道路。事業箇所は新名神高速道路の宇治田原IC（仮称）へ直結する区間であり、幅員狭小及び線形不良である当該箇所の道路改良により、アクセス向上と周辺まちづくり支援を図る。					
H27年度事業化		H28年度都市計画決定		H30年度用地着手	
R元年度工事着手					
全体事業費	約19億円	事業進捗率	約71%	供用済延長	— km
計画交通量	15,300～23,000台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 3.7 (残事業) 11.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 6.3/19億円 事業費：5.1/18億円 維持管理費：1.2/1.2億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 69/69億円 走行時間短縮便益：60/60億円 走行経費減少便益：8.4/8.4億円 交通事故減少便益：0.65/0.65億円	基準年 令和3年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=3.3～4.1 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=11.2～13.7(交通量±10%) 事業費：B/C=3.4～4.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=11.6～13.5(事業費±10%) 事業期間：B/C=3.7～3.7 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=11.0～11.0(事業期間±20%)					
事業の効果等					
① 安全な通行の確保 ・現道拡幅及びバイパス整備により、大型車の安全な離合や車両の走行性確保を図る。					
② 城陽市のまちづくりの支援 ・新名神高速道路の開通による広域的な交通利便性の向上に合わせて、インターアクセス道路としての機能向上を図り、地域経済や地域間交流を促進する。					
③ 工業団地アクセスの向上 ・開発が進む周辺の工業団地からの広域的なアクセス向上により、地域経済の活性化が期待される。					
④ 災害時の安全・安心の向上 ・要対策箇所等の迂回により、緊急輸送道路としての信頼性が向上し、緊急車両等の通行性の確保や、防災機能の強化を図る。					
関係する地方公共団体等の意見					
・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。 ・「京都府夢実現プラン山城地域振興計画」(R元年10月策定)の主要事業に位置付けられている。 ・国道307号改良促進協議会(会長：彦根市長、副会長：宇治田原町長ほか)から要望。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
・新名神高速道路の整備により、アウトレットモールや物流拠点など、周辺開発が進展しており、これらを経る4車線道路軸を形成する本事業の必要性が増している。 また、白坂テクノパークでは造成工事が完了し、現在15社が稼働し、今後新名神と直結されることで、さらに広域的なアクセス性向上による地域経済の活性化が期待される。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約88%、事業進捗率約71%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地買収の進捗により、改良工事等を推進して早期供用に向け事業を推進していく。					

施設の構造や工法の変更等

切土により発生する建設発生土は、現場内や他工事の盛土に流用しコスト縮減に努める。

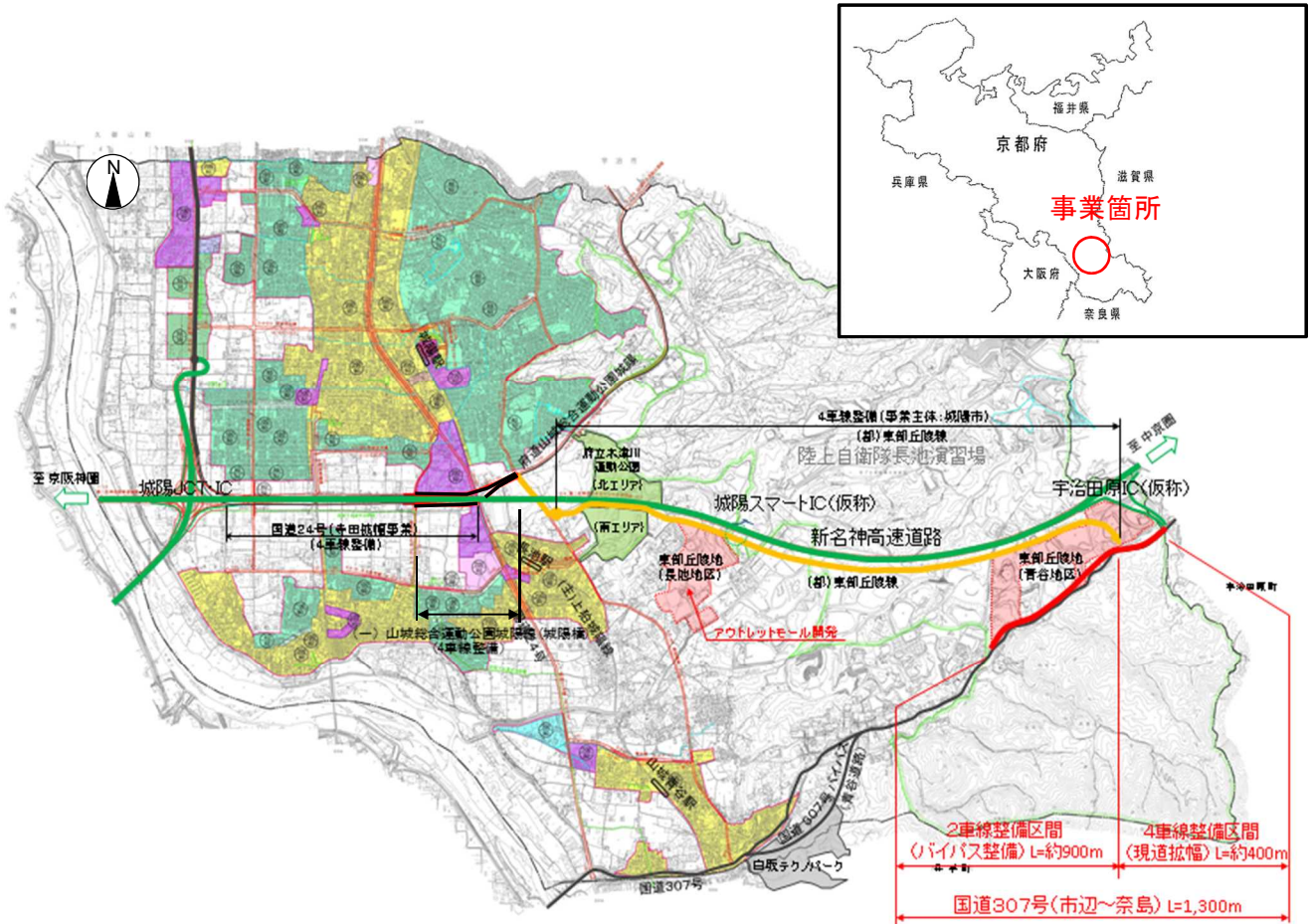
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。